

**「挑戦と希望の地域支援・地域支援における他機関との連携」
に関わった事の振り返りと気づき**

立山 裕也

【地域支援について】

地域で働く訪問看護師が未だに（身体科）（精神科）と隔てて、「（身体科メインの ST）当ステーションは精神科の対応はできません」や「（精神科メインの ST）当ステーションは精神科のみの対応しかしていないので、身体疾患を合併している場合は対応できません」という理由で、精神疾患を患いながらも地域で生活する方に必要な支援が行き届いていない現状である。

このような状況を打破するためにも、地域で働く看護師自身のスキルのボトムアップが重要だと感じる。

今後、語ルシストの会が主となって看護師のボトムアップに繋がれば良いと個人的に感じる。

【他機関の連携について】

自分の身の回りに関しては密に連携がとれて、自分の担当する利用者に関しては適切な支援が行えているという自負がある。しかしながら、それでは支援の幅が狭いため、今後、同じ志を持つ仲間で繋がり、支援の幅が広げられたらと考える。

次回、イベントを企画する際は、私たちよりも長く深く精神疾患・障がいに関わっている支援者や福祉職、行政機関にも登壇して頂きたい。

幅広い分野の支援者で関係づくりを行っていかなければ、実際の連携強化に繋がらないと感じる。

各々が得意とする、専門分野の事例検討会であったり、勉強会などには積極的に参加したいと思うのが普通であるが、【精神障がい】に関しては個々が小さい母体で色々と発信しており、（支援者同士）に溝があると感じた。他の分野には無い異質的な状況である。

日頃、行っている自分たちの支援に対して自身が無いからなのか？経営上のライバルという思いが強くて距離をあえておいているのか？理由はわからない

が、とにかく同業者（訪問看護ステーションの場合は）同士の横のつながりが無い現状である。

もちろん、すべての事業所と仲良くやっていくのは無理であるが、少なくとも精神疾患を支える各分野、職種同士は繋がっていきたいと感じる。

語ルシストの会にそういった方々が今後、携わってくれるよう発信が重要だと感じた。